

1 2月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比D I値の動き

令和4年12月のD I値は8指標中、「景況」「販売価格」「雇用人員」の3指標が上昇し、「収益状況」「取引条件」「資金繰り」「設備操業度」の4指標が下落、「売上高」が横ばいとなった。

2. 県内中小企業の景気の現状

年末ということもあってか、「好調」との報告がいつもより多く見られ、一部では売上げも上がっているとの明るい報告があった。納品の長期化にも改善の兆しが見受けられ、価格転嫁が進んでいる業種もあるようだ。また、新型コロナウイルス感染症は再度感染拡大しているが、長引くコロナ禍で意識の変化や全国旅行支援の効果もあり人流は戻りつつある。

しかし、コロナ禍による経済への影響が残る中、ほとんどの業種が原材料費やエネルギー高騰、急激な円安等の影響を受け厳しい経営環境に置かれている。これらの不安定要因により、益々厳しい状況になることも予想され、本格的な経済回復まではまだまだ時間がかかりそうだ。

徳島県の景気は生産の増勢に鈍さがみられるものの、基調として持ち直している。物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染動向に十分注意する必要があるが、今後ウィズコロナの下で、各種政策の効果により景気が持ち直していくことが期待される。

最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

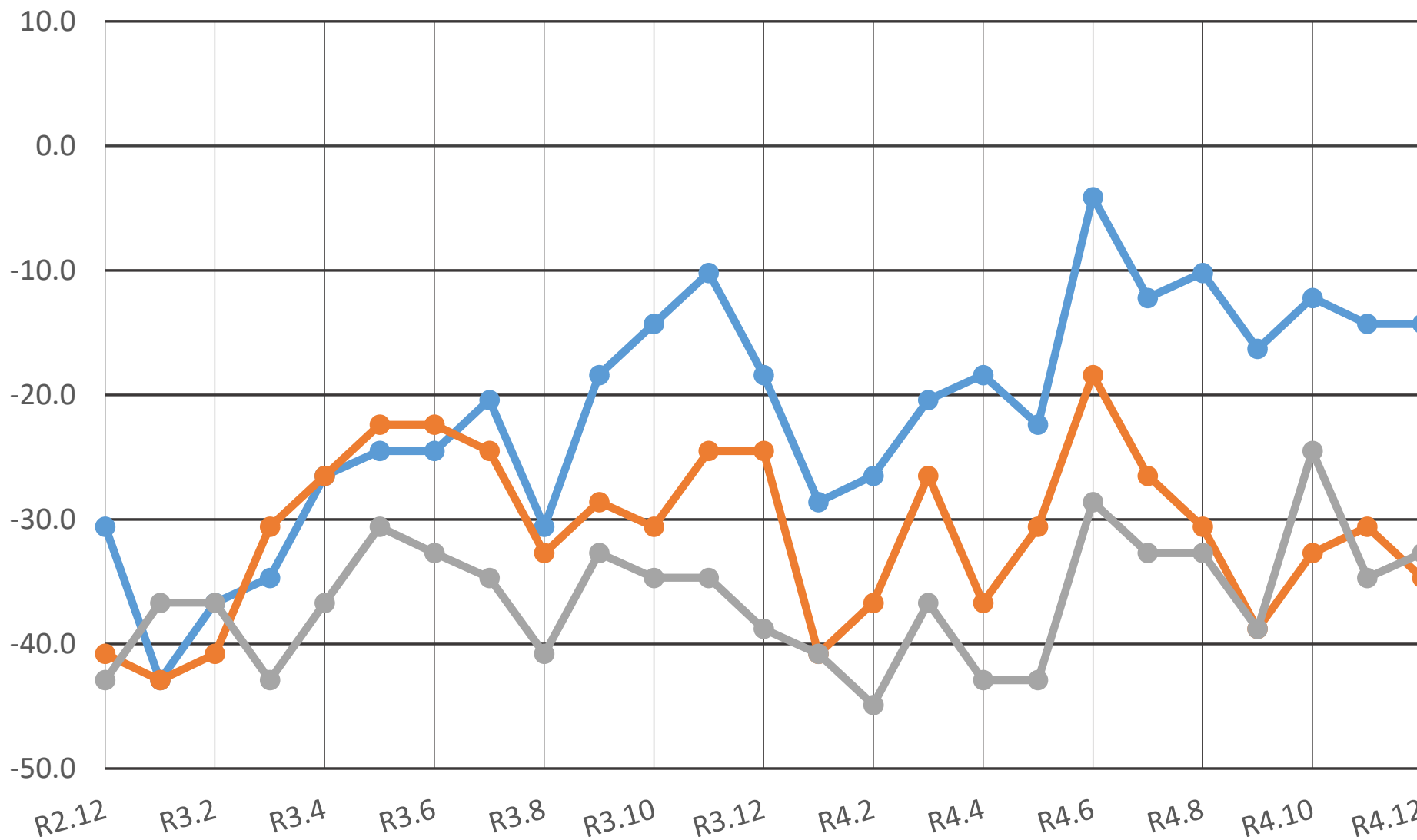
	R3 12月	R4 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	前月比 増減
景況	-38.8	-40.8	-44.9	-36.7	-42.9	-42.9	-28.6	-32.7	-32.7	-38.8	-24.5	-34.7	-32.7	2.0
売上高	-18.4	-28.6	-26.5	-20.4	-18.4	-22.4	-4.1	-12.2	-10.2	-16.3	-12.2	-14.3	-14.3	0.0
収益状況	-24.5	-40.8	-36.7	-26.5	-36.7	-30.6	-18.4	-26.5	-30.6	-38.8	-32.7	-30.6	-34.7	-4.1
販売価格	18.4	22.4	16.3	18.5	18.4	16.3	18.4	32.7	22.4	30.6	24.5	24.5	26.5	2.0
取引条件	-8.2	-16.3	-24.5	-16.3	-12.2	-16.3	-12.2	-10.2	-16.3	-18.4	-16.3	-16.3	-18.4	-2.1
資金繰り	-16.3	-16.3	-20.4	-20.4	-16.3	-14.3	-6.1	-12.2	-16.3	-22.4	-10.2	-14.3	-16.3	-2.0
設備操業度	-2.0	-4.1	-10.2	-8.2	-6.1	-6.1	-6.1	-8.2	-12.2	-10.2	-8.2	-6.1	-12.2	-6.1
雇用人員	-2.0	-10.2	-10.2	-12.2	-6.1	-8.2	-10.2	-8.2	-8.2	-10.2	-6.1	-8.2	-2.0	6.2

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

徳島県中小企業団体中央会

前年同月比DIの推移

売上高 収益状況 景況



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味噌
味噌・前年同月比で味噌の生産量は105.6%、出荷量は111.4%であった。前月比で味噌の生産量は104.7%、出荷量は117.0%であった。前年度、前月比で順調に回復しており、特に前月より大きく増加している。コロナの感染者数は増えているが今のところ行動制限等はなく、年末年始にかけての外食需要の増加が期待される。
2. 漬物
漬物・漬物製造業者では年末年始に向けての生産が好調であった。しかしながら、資材価格高騰の影響から、収益状況は悪化している。

<繊維・同製品>

3. 縫製
縫製・令和4年もコロナ感染症が続き、また、円安、物価高、人件費増、人手不足、他、色々な問題を抱える中、令和5年は何を優先するべきかを慎重に考え、どう取り組むかで大きく変わると考えています。
4. 縫製
縫製・生産数量について、年間を通して月毎の生産数の変動があり、平準化できていないので労働力が余る月が出てきている。繁忙期と閑散期で従業員数の調整が必要になり、やりくりが難しい。生産体制を中長期的に再構築を進める途上であり、昨年度の設備投資が本年度に繰り延べとなっている。値上げはエネルギー費増大に対する対策が急務である。

<木材・木製品>

5. 製材
製材・住宅着工に勢いは感じられず、また大径木の良材丸太が価格低迷で集まらず、注文材への対応ができていない状況もある。製品市場においても、構造材の取引の動きが鈍いようだ。
6. 木材
木材・令和4年の最終月であります。今年もコロナで始まりコロナで終わってしまいました。外材素材と集成材の輸入量は比較的回復しましたが、円安の影響が大きく価格的高止まり傾向が強いまま年末を迎えました。徳島県産の木材については、やはり素材の生産量が需要量に達していないため金額的には高いまま、県外産についてはある程度落ち着いてきましたが、コロナ前のかつての水準までは戻っていない模様です。

<印 刷>

7. 印 刷・12月も「ボーナス需要」「お歳暮」「年越し」「クリスマス」等のイベントがあり輪転等のチラシは好調だった。一方、資材や用紙の値上げによる価格転嫁は進んでいるものの、頁数の減少、ボリュームの減少、部数の減少、仕様や紙質変更等による予算調整で収益状況は悪化している。予想に違わずコロナ感染者数も今年のお盆明けの様な状況になりそう。本格的な経済回復までは、まだまだ時間がかかりそうだ。
8. 印 刷・12月は、コロナ前では1年の中でも受注量の多い月ではあったが、ここ数年期待していた数字をあげられた組合員はほとんどいなかった。只、第8波によってコロナ感染者数も増加しているが、全国旅行支援などで人の動きがかなり活発化していることがこれらの経済活性化につながり、少しでも期待で来る2023年になることを願うばかりである。

<窯業・土石製品>

9. 生 コ ン・12月の出荷量は昨年同月比約29%の減少であった。降雪の影響もあると思うが基本的に出荷量が減少していることが要因ではないかと思う。またセメントの値上げによる生コン価格のさらなる引き上げも余儀なくされ、ますます厳しい状況になることが予想される。
10. 生 コ ン・12月の出荷数量は、対前年同月比18%減であった。要因としては土木工事は出ているものの官工事での大型発注工事の減による。7月より生コン価格引き上げを行ったが、原材料値上がり分に対する対応が追いつかず、収支は依然として厳しい。

<鉄鋼・金属>

11. 鉄 鋼・業況感は、年末にかけて回復傾向にあるものの依然として横ばいの状態で推移しており、原材料やエネルギー価格の上昇及び資材調達の遅れなどの影響が引き続いている。年明け以降についても先行き不透明感が根強い状況ではないかと懸念される場所である。
12. ス テ ン レ ス・企業活動は国内外ともに活発化してきているが、物価の上昇は継続している。納品の長納期化については一部で改善の兆しが見受けられるが、まだまだ先行きの不透明な状態は継続している。また、国内の新型コロナウイルス感染数は拡大傾向が収まらず、感染症による企業活動への影響が懸念される。感染症対策や物価上昇、供給面での制限等様々な影響が懸念される中、対策を講じつつ企業活動の維持に取り組んで行く必要がある。

<一般機器>

13. 機械金属・全国的に、新型コロナウイルス第8波による新規感染者数の再拡大が警戒される中、輸送、エネルギー、原材料コストの高騰等、諸々の不安定要因により、営業活動の停滞、部品の調達難、受注状況の悪化が懸念される。一部に景況感の持ち直しの動きも見られるが、引き続き、予断を許さない不透明な経営環境に大きな変化は見られない。また、需要の停滞をはじめ、円安による小売価格の高騰、従業員の確保難なども、引き続き、経営上困難な課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸売業>

14. 食糧卸・原材料費の値上がりはもとより、電気代の上げ幅が相当きつい。

<小売業>

15. 機械器具・小売価格の上昇が消費マインドを低下させ始めている。物不足、仕入れ額の上昇、納期の不安定と良いニュースはまだ見えてこない。
16. ショッピングセンター・12月の前年対比は売上103.8%、客数96.2%です。業種別には衣料品118.8%、住居関連107.3%、食品97.8%、身の回り品90.3%、サービス86.6%の順です。令和2年1月分の私の連絡票に初めて「コロナ」という言葉が出てきて、はや3年が経過しました。当初は感染者の増減に比例して売上に影響がある感がありましたが、昨年1月の6波頃からコロナと売上は関係のないような動きをしています。現在はコロナよりも原油高騰による電気料金、物価上昇等が脅威です。
17. 電気機器・商品、部材等の仕入れ価格は依然として上昇傾向にあり、今後売上げおよび収益に影響がより大きく出てくると考えられます。省エネ傾向もあり暖房は石油暖房に代わり、省エネ型エアコンに移行してきている。
18. 各種商品小売業・新型コロナウイルス感染症の拡大の影響でイベント等も中止になり、集客も減少気味になり、売上も昨年より下降したようだ。業種によっては売上上昇も見られるが、まだ厳しい状況が続くそうである。
19. 畳小売業・11月に続き、12月も仕事量は安定してあった。リフォーム関連、ホテル関連の畳替えはあったものの、一般家庭用は少なかった。新築の中で畳を敷かないものが30%以上の傾向は続く。

<商店街>

20. 徳島市・クリスマス寒波に備え、セーターやコートが動いた。県外へ行くのに…と買い物に来られる方もちらほら増えてきた。

<サービス業>

21. 自動車整備業・12月の登録状況は、軽自動車の新車登録のみ前年度を上回り、それ以外はすべて前年度を下回った。登録車、軽自動車ともに中古車の登録台数の落ち込みが大きく、軽自動車の中古車登録に関しては対前年度比20.1%減という結果。トータルでは2.7%減となった。23年1月以降も半導体不足や部品調達の滞りがあり、不透明な状況であることに加え、情勢は非常に複雑で、現時点では見通しが立たないようである。収益情報の目安とみている継続検査の台数は、登録車は5.3%増、軽自動車は2.7%減。改善には至らず横ばい状態だ。
22. 土木建築業・前年同月と比べて、売上高は増加しているが、人員増加による設備追加・電子機器増により収益に影響が出ている。来年度は業務広告があり、十数名の自社事務所での業務作業となるため準備を開始した。
23. ビル管理・近年の最低賃金の急激な増額改定、原材料費の値上げ等が相まって厳しい経営環境下にあります。最低賃金の引き上げによる経営の圧迫については、契約先に理解を求める活動を粘り強く行っているところです。通常営業関係のホテル業に関しては、全国の宿泊・旅行割引キャンペーンの効果もあり、各イベント会場、会議等の稼働も高く、それらに伴い客室稼働率がコロナ禍前まで回復しています。これからさらに伸びるものと思われます。その関係でホテルメンテナンス業に関しての売上げはほぼコロナ禍前の水準に回復しています。しかし、コロナ関連受入れのホテルにおいては、陽性者の高止まりが続いているため、受入期間の延長が続き、通常営業の再開は未定のままで、ビルメンテナンス業への影響は続いています。また、医療施設や高齢者利用所施設においては、コロナ陽性者の高止まりが続いている中、感染防止対策等引き続き管理者と連携し、細心の注意の下で業務を遂行しているところです。これらの課題への対応に加えて、コロナ後に備えて従業員の補填活動も大きな経営課題として取り組んでいるところです。
24. 旅行業・旅行業はコロナ感染者数の増加傾向ではあるが、旅行支援事業などの支援や、お客様のコロナに対する意識の変化で旅行に対して多少なりとも前向きに動き出していると感じていますが、仕入、宿泊先などの価格上昇、大手の大掛かりの予約により、中小の旅行会社では仕入れが出来ないなどという事や、地域の人口減少と長引くコロナ禍による旅行需要減少を過疎の地域の会員より訴えがある。売上げは2019年度同月の80%には回復している。

<建設業>

25. 鉄骨・鉄筋工事業・地場物件は相変わらず少ない。物価高、賃金の上昇機運に逆行するような加工単価の低さが懸念される。
26. 建設業・11月は、国、独立行政法人等の発注工事は増加したが、県発注工事が大幅に減少した。全体の単月では前年比約11%増となっている。特に請負額で、徳島県では対前年比約-23%と落ち込みが顕著である。
27. 板金工事業・資材の品不足も減ってきたようで、コロナ前の景気になりつつある。
28. 電気工事業・新設住宅口数は110件で、昨年同月比55.8%となった。

<運輸業>

29. 貨物運送業・毎年12月は前月と比べて量的には増加するが、前年同月比横ばいでコロナの落ち着きも見られた中、業界としては燃料油の高止まり・運賃の値上げ交渉の低調等で、厳しい経営が続いた。
30. 貨物運送業・荷動きはあるようだが、コロナ禍前の年末の繁忙が感じられないと答える事業者は多い。燃料高が解消される見通しもなく、運送事業者にとって、まだまだ厳しい状況が続く。